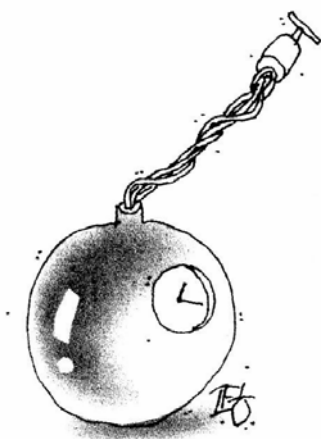


## よ 縺り糸

### 第2編4章

神は人間の心にどのように働かれるのか？



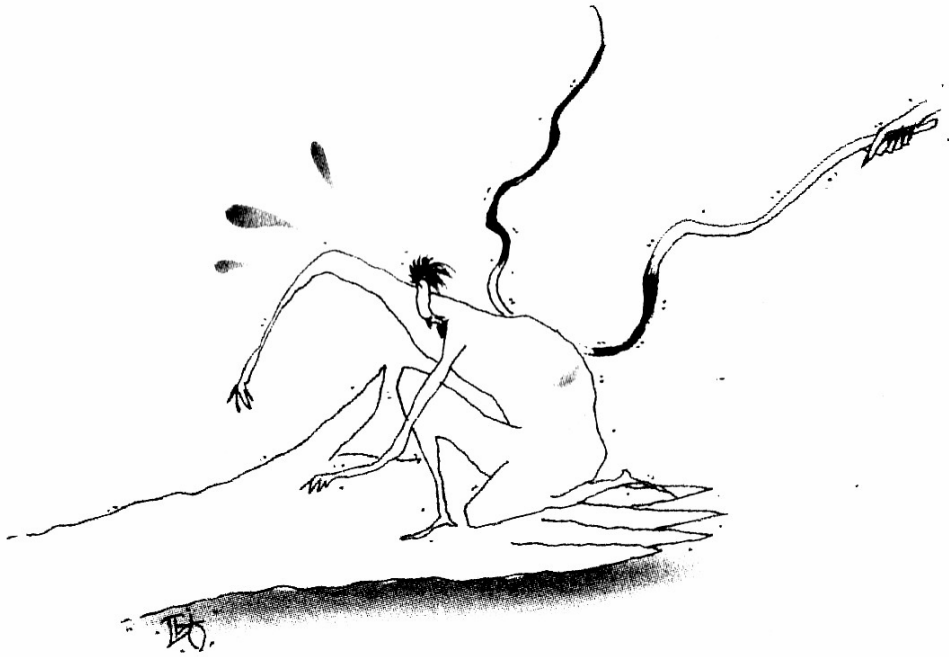
私たちは日常生活の最も小さなことから非常に重大なことに至るまで私たち自身の自由な選択よりも神の働きかけによって導かれていることを知ることができるのです。非常に単純なことを理解も判断もできずに、勇気を失ってしまう反面で、非常に難しいことにぶつかったときに驚くべき知恵が生まれ、勇気が出てくる場合があります。これこそ神の働きのためだと言えるのです。

よく映画を見ていると悪人たちが人に時限爆弾を結びつけて逃亡してしまいます。そうすると主人公が現れて苦労してそれを取り除けようとするのです。そのとき登場する場面のひとつが、主人公が爆弾につながっている電線を目の前にして汗を流して悩む姿です。青、赤、黄色の配線が互いに束ねられて、いったいどの線を切ったらよいのでしょうか？もし線を誤って切ってしまったら、爆弾はその場で爆発してしまいます。だから難しいのです。その複雑な配線は互いに正確に機能しているからです。その線の中のひとつも不必要なものはありません。その線が互いに働き合うように爆弾が作られているためです。

墮落した人間の心には神と悪魔と人間自身の思いが同時に働いています。今回は私たちの内で働いているその神秘的な関係を調べてみることにしましょう。私たちの行動ひとつひとつに込められた神と悪魔と私たち自身の役割が何であるかについて学びます。

第1節 人は悪魔の勢力下にあって、本当に喜んで彼の僕の役割を果たす。

アウグスチヌスは人の意思と神と悪魔との関係を次のように馬とその乗り手との関係で説明しています。「もし、神がこれに乗りたもうならば、神は中庸をえた、熟練した乗り手のように、整然とこれを御したもう。歩みがにぶれば拍車をかけ、早すぎれば手綱をしめ、わがままと無節度をおさえ、強情を制し、正しい道に引きかえらせたもう。しかし、もし、悪魔が場所を占めるならば、ばかで短気な乗り手の場合のように、道のないところを駆けさせ、穴に落ち込ませ、断崖



から墜落させ、強情と乱暴とに駆り立てる。十分ではありませんが非常にまともを獲たたとえと言えるでしょう。

ですから、聖霊によって再生されていない人は（自然人）はいつも必然的に悪魔の働きに服従しています。いやいやするのではなく純粹に、そして喜んでそのようにするのです。あまりにも罪にしっかりと結びついてしまっているために腐敗した人間の本性だけでは善を求め、それを決心し、善を追及することはできないのです。罪という手錠をはめられた人間は強制されてではなく、必然的に自ら進んで罪を犯すようにされているのです。

このように神の恵みのない罪の下にある人間は常に悪魔の勢力下にあります。このようなとき罪人の心には悪魔がさまざまな衝動と誘惑と陰謀を起こして働いています。私たちは普通、罪を犯す人間たちを見ると悪魔が働いていると言うのでしょうか？しかし、罪の責任を人間以外に求めようとしてはなりません。人間の腐敗した意志があらゆる悪の勢力と、悪魔の働く悪の王国の場所となり土台となっているのです。

第2節 同じ出来事の内側に神と悪魔と人が働いている。

ヨブの例をもう一度考えてみましょう。カルディア人たちを御覧なさい。彼らはヨブの羊飼いたちを殺し、彼の羊たちを略奪しました（ヨブ 1:17）。語るべくもなく彼らの行動は悪でしかありません。そして彼らのすべての行動には明らかに悪魔の働きがあったのです（ヨブ 1:12）。それではヨブを見てみましょう。ヨブはそのすべてのことを神の働きと見ていました（ヨブ 1:21）。

どうしてそのようなことが言えるのでしょうか？神は悪を行われる方なのでしょうか？神は悪

魔を自分の同労者として選ばれたのでしょうか？人は操り人形にすぎないのでしょうか？どのように私たちはこのすべての危険な疑いを退けることができるのでしょうか？二つのことを知らなければなりません。ひとつは目的であり、もうひとつは方法です。ひとつの行動の中に働かれる神と悪魔と人間の目的と方法が互いにどんなに違っているかを調べれば、そのような疑いはすっきりと解決されるはずで

ではヨブの場合を調べてみましょう。まず目的です。神は災いを通して愛するヨブを練達させようとされました。神はヨブに正しい裁きと無限の愛で接しておられます。しかし、悪魔はヨブを絶望させようと努めたのです。そしてカルディア人は法と正義に逆らって自分たちの邪悪で利己的な思いを実現させようとしてしました。どんなにその目的は違っているのでしょうか？

次は方法です。神は悪魔がヨブを苦しめることを許され、カルディア人をその使いとして選び、悪魔の支配下に置かれました。そして悪魔は自分の悪しき計画を実現させるためにカルディア人の悪い心を刺激して悪行に没頭させ、実行させました。そしてカルディア人を喜んで悪魔の衝動に従わせ、狂ったように罪に突進させ、自分たちの体と周辺の世界のすべてを罪に染めようとさせたのです。

このとき神は独自の目的と方法を持って働かれました。つまり、神は正しき裁きを執行するために悪魔を自分の怒りの道具として使われ、悪魔を神が命じられたとおりに四方八方で狂ったように暴れさせ、歩き回らせたのです。このように目的と方法を区別して調べるなら、同じ行動のなかで神の正義と悪魔と人の醜悪さがどのように作用し合っているかを混同することなくはっきりと見分けることができます。

### 第3節 恵みを取り去り、呪いを増し加えることで働かれる

さらに聖書を見るとさまざまな人が心を堅くならされ、心を閉ざされ、捻じ曲げられたような表現が登場します。神は彼らの心にどのように働かれているのでしょうか？普通、たくさんの人々が神の予知と許容という言葉でその難しい質問から逃げようとします。神が彼らの頑なな心をおろかじめ知っていたと言い、またそのようにすることを許されたただけだと語るのです。

しかし、そのような答えではあまりにも不十分です。神は次の二つの方法で人をそのように頑なにさせ、また心を閉ざさせるのです。第一に彼らから恵みを取り去ることでそのようにさせます。正しく考え、正しく選択できる力を取り去られるとき人は頑なにされるのです。このようなとき私たちは神が彼らを頑なにさせ、心をとざさせたと語ることができます。第二に彼らに呪いを増し加えることでそうされるのです。悪しき性質をさらに悪くさせて頑なな心をさらに頑なにさせるのです。

聖書では前者の場合よりは後者の場合のほうがより多く登場します。神がご自身の正しい裁きを執行するために裁きの道具である悪魔を使って、人の心をそのようにさせるのです。これも一種の神様の裁きです。罪人に対する罰として呪いを増し加えるのです。

このような例は聖書にたくさん登場します。第一の方法は神が人をただ腐敗した本性のままにすることです。恵みによって与えられた知識と賢さと良心を奪い取って迷わせさせるのです（ヨブ 12:20、24;エゼキエル 7:26;詩篇 107:40）。第二の方法は神が人の腐敗した本性をさらに悪くさせ、頑なにさせるのです。エジプト王ファラオの心を頑なにさせたことがそのよい例です（出エ

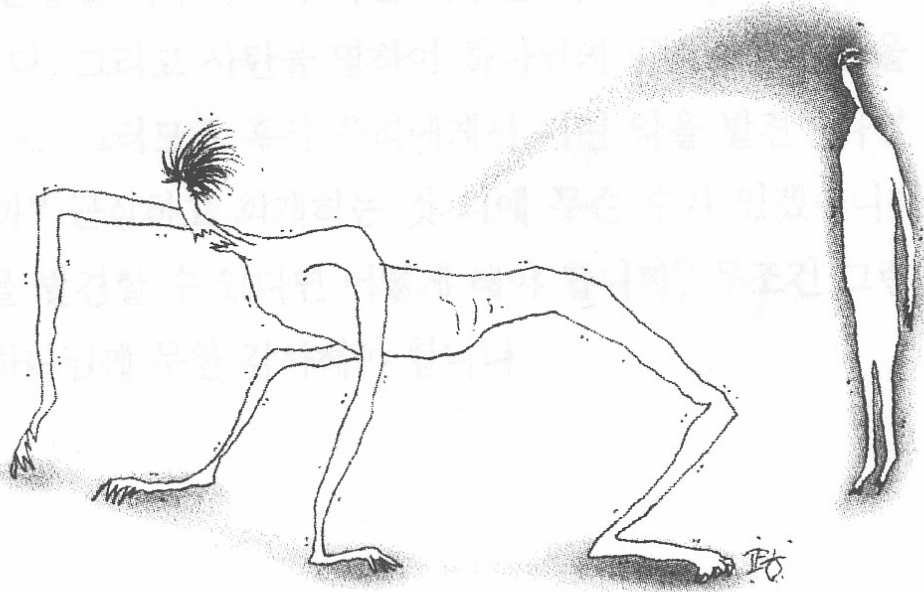
ジプト 7:3、4、10:1,20,27)。モーセもそのようにされた方は神であると証言しています(申命記 2:30)。神は恵みを奪い取ることで人を頑なにすることもされ、また呪いを増し加えることでそのようにさせるのです。神はご自分の罪を罰せられるときにはいつも遺棄された者たちを道具として使用されます(土師記 5:26、7:18;エゼキエル 12:13、17:20;エレミヤ 50:23;土師記 10:15)。

ですから悪魔も神に仕える僕とすることができます。サムエル記では「神からの悪しき霊」という表現が登場します。悪魔も神の命令によってだけ自分の悪しき思いを実行することができるのです(サムエル上 16:14、18:10、19:9;サムエル後 2:10、11)。このように人間は墮落した自分の本性が思った通りの悪を行い、悪魔も思い通りに荒れ狂うのですが、そのすべてを決定する主権はただ正しき裁きと無限な愛を求められる神の上にあるのです。

#### 第4節 神は私たちのすべての自由を支配される

腐敗した人間の意志に神の義を行う力がないことは明らかですが、そうだとでも社会生活を維持するために必要とされる一般的な義を行う力までないのでしょうか? 墮落してしまい自らで神を探し出すことはできなくても、互いに協力しあって、困っている隣人を助け、交通信号を守り、まじめに働き、勉強をするなど一般的な善行や、ある才能と技術を発揮するなどそれ自体では悪でも善でもないたくさんの場合にはどの程度自由があるのでしょうか? ルター派の神学者をはじめとしてたくさんの哲学者たちがそのようなときは私たちの意志に自由があると主張します。しかし、神の摂理を語るとき、すでに説明したようにすべての善と才能と技術などはみな神の特別な恩寵のうちにだけあると言えるのです。

例をあげれば、エジプトの民は出エジプトをする直前のイスラエルの民に金や銀でできた装飾品を与えました(出エジプト 11:2,3)。誰が彼らの心をそのよいにさせたのでしょうか? 神は自分の御心通りに人の心を善や、あるいは悪に傾くようにされるのです(詩篇 106:46;サムエル上 11:6;



サムエル下 17:14;列王上 12:10,14 )

ですからよく考えてみれば、私たちは日常生活の最も小さなことから非常に重大なことに至るまで私たち自身の自由な選択よりも神の働きかけによって導かれていることを知ることができるのです。非常に単純なことを理解も判断もできずに、勇気を失ってしまう反面で、非常に難しいことにぶつかったときに驚くべき知恵が生まれ、勇気が出てくる場合があります。これこそ神の働きのためだといえるのです。

ソロモン王はそのような意味で「主の御手にあって王の心は水路のよう。主は御旨のままにその方向を定められる。」(箴言 21:1) と語ってもいます。アウグスチヌスの有名な言葉のように、人のすべての意思は神の主権と知恵のうちにおいて、神が求められるときに、求められるところに傾くようにされるのです。ある場合には恵みを、ある場合には罰を与えようとして、そして最も隠された、最も正しい神の判断に従ってそのように傾けさせられるのです。

### 結びの言葉

より糸の働きを覚えましょう。ひとつの行動の中に神と悪魔と人間が同時に働きます。もちろん、互いに全く違った目的と方法で働くのです。神は恵みを取り去り、あるいは呪いを増し加えて罪人たちの中で働かれます。そして悪魔に命じて神の正義の審判を行わせようとされるのです。それでは私たちに何らかの悪を発見したならば、どのようにすべきでしょうか？反省し、心から悔い改めることのほかに何ができるでしょうか？そしてもし、善を発見することができたならば、どのようにすべきでしょうか？無条件でそのような恵みを与えてくださった神に限りない感謝をささげるべきなのです。